

2025・6

柏の景気情報

令和7（2025）年6月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和7年6月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

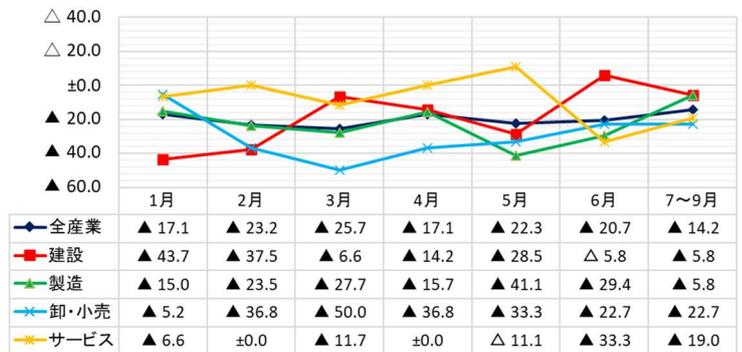
回答期間：令和7年6月20日～令和7年7月4日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数77

一部業界で売上の改善傾向が見られるも、業界全体では費用の高止まりによる採算の厳しい状況が継続。

6月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲20.7（前月水準▲22.3）となりマイナス幅が1.6ポイント縮小した。

各業界、コスト増や人手不足など懸念は山積み。建設業では、インフラ整備関係業務で売上が見込まれるも、材料費の上昇による採算確保の課題が残る。製造業では、人手不足による配送の削減に加え、コスト増による利益率の悪化が見られる。卸・小売業・サービス業では、天候や猛暑の影響で客数が伸び悩み傾向である。

柏の景気情報・産業別業況DI



★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



「3ヶ月の見通しは国土強靱化政策に伴うインフラ整備関係業務の売上増加が見込まれるが、エネルギー関係、材料などのコスト上昇も見込まれるため、価格転嫁を含めた採算確保が課題である。」（地質調査）「職人さんの高齢化に伴い若手を育てだした、暑い夏の昼工場内労働環境整備が急務。」（昼工事請負・昼製造販売）「税制度について改革を行っていかないと、日本企業は、今後も厳しくなる一方だ。外国資本の会社が日本に進出しているのであれば、日本企業より高めの税金をかければ良いと考える」（塗装工業）



「業界全体として人手不足の為に、配送回数の減少が起こっている。特にカーメーカーサイドの部品卸が、ドライバー不足と輸送コストの削減、効率化を図って、配達回数を減らしたり、納品時間の延長を今後進めていくとの通達があった」（自動車・同附属品製造）「売上高は若干ではあるが右肩上がりだが、それ以上のコスト増で利益は減少傾向が続いており、厳しい状況は当面続くと見ている。既存設備は各所築数十年経っており、新設備投資が数年間必須となっている」（その他の鉄鋼）



「採算が全体的に前年よりは悪化。仕入れ値が高止まりではあるが、ここ数ヶ月は落ち着いている」（その他各種商品小売）「5月は週末土日のどちらかに雨が降り、五月晴れと言われる日も少なかった。よって、集客に苦労し客数が思う以上に伸び悩み苦戦した。6月に入り空梅雨で雨が少なく気温も上昇し、夏物の動きが出てきて一安心である。しかし、急な気温上昇の為、野菜の高温障害や鶏肉出荷停止（鶏インフルエンザ）による品薄のための相場高など、仕入れは安定しない。米は6月に入り、徐々に仕入れ量が増えつつあるが安定はしていない」（大型小売店）



「例年よりも暑さが早く来たため昨対より来場者が8%減少。ただし客単価は変わらず漸増している。今年度は修繕などでキャッシュアウトが多いが、コロナ前に比べ見積もりが30～50%高くなっている」（ゴルフ練習場）「相変わらず不動産の価格、材料費、人件費は全て値上がりしている。また、売買市場は弱い。今後も、一般のお客様の動きは鈍い」（不動産管理）「物価は下がらないと思うので必要な投資は早めに行っていくことを心掛けている」（不動産賃貸・管理）「人手不足、即戦力と若手、大型案件受諾にも対応困難」（ソフトウェア業）

★全国の商工会議所早期景気観測調査 (CCI-LOBO) との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲20.7に対し、「CCI-LOBO」が▲16.8で、柏のほうがマイナス幅が3.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業・サービス業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 20.7	 5.8	 ▲ 29.4	 ▲ 22.7	 ▲ 33.3
CCI-LOBO	 ▲ 16.8	 ▲ 15.2	 ▲ 18.6	 ▲ 22.4	 ▲ 8.5
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.5	 ▲ 11.7	 ▲ 35.2	 ▲ 9.0	 ▲ 9.5
CCI-LOBO	 ▲ 3.5	 ▲ 7.4	 ▲ 3.8	 ▲ 11.2	 8.7
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.9	 ▲ 35.2	 ▲ 35.2	 ▲ 18.1	 ▲ 19.0
CCI-LOBO	 ▲ 16.5	 ▲ 14.2	 ▲ 17.4	 ▲ 19.8	 ▲ 12.2
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 63.6	 ▲ 35.2	 ▲ 70.5	 ▲ 72.7	 ▲ 71.4
CCI-LOBO	 ▲ 62.7	 ▲ 68.1	 ▲ 57.5	 ▲ 64.0	 ▲ 65.1
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.8	 47.0	 17.6	 ▲ 4.5	 14.2
CCI-LOBO	 20.6	 37.5	 9.7	 14.1	 28.6
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.5	 ▲ 5.8	 ▲ 35.2	 ▲ 13.6	 ▲ 9.5
CCI-LOBO	 ▲ 10.5	 ▲ 4.0	 ▲ 12.5	 ▲ 14.1	 ▲ 10.4

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (6月速報)

調査期間：2025年6月13日～19日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、消費マイン
ドの持ち直しにより、
小幅改善

先行きは、コスト負担
緩和への期待での上向き
見込む

6月の全産業合計の業況
DIは、▲16.8と前月比
からプラス1.2ポイント。

建設業では、資材価格高騰
や人手不足の継続のほか、公
共工事の不服感で、悪化し
た。製造業では、設備投資需
要の下支えにより、改善し
た。小売業では、消費マイン
ドが持ち直しつつあること
で改善した。

物価高は継続している一
方、政府によるガソリン価格
への新たな補助が始まった
ほか、一部の事業者からは、
随意契約のコメを入荷・販売
できたという明るい声も聞
かれた。設備投資需要が堅調
なほか、高い水準の賃上げが
続いていることで消費マイ

ンドが持ち直しつつあり、中
小企業の業況は小幅改善と
なった。

先行き見通しDIは、▲1
5.7と今月比からプラス
1.1ポイント

コスト増加分の価格転嫁
や人手不足など、依然として
対処すべき経営課題は山積
している。米関税措置によ
る、今後の動向の不透明さも
拭えない。

一方、政府の電気・ガス代
支援（7～9月使用分）によ
り、企業のコスト負担緩和が
見込まれるほか、コメ価格に
ついて、下落の兆しがあるか
がえる。加えて、高い水準で
の賃上げが続いており、消費
マインド改善の下支えが期
待されることから、先行きは
若干の上向き基調が見込ま
れる。

【建設業】

「自社に限らず地域全体
として人手不足の状況であ
り、特に技術者の採用がなか
なかなできない。また、公共工

事の件数もやや少ない状況と
なっている」（一般工業業）

「公共工事において、コス
ト増加分の価格転嫁に向けた
協議に応じてもらえないケー
スがあり、赤字工事が発生し
てしまった」（土木工業業）

【製造業】

「設備投資需要の引き合い
が強いので、工場の移転・拡充
を行い、生産体制の増強を図
る」（精密測定器製造業）

「現状の業績は好調だが、
自社の主要顧客は北米への輸
出が多いため、アメリカとの
交渉の結果次第では、関税措
置の影響を大きく受けること
になると思う」（民生用電気機
械製造業）

【卸売業】

「今月になってさらに仕入
単価が上昇したが、販売先の
抵抗が強いため価格転嫁がで
きず、自社の採算が悪化した」

（食料・飲料卸売業）

「今月から法改正で職場に
おける熱中症対策が義務化さ

れたことに加え、例年と比べて
気温が高いため、冷却ファンの
ついた作業着など、熱中症対策
の商品の売れ行きが良い」（衣
服卸売業）

【小売業】

「観光客の来店が多いが、人
手不足が継続しており、対応に
苦慮している。また、今後は酷
暑による来店客数の減少も懸
念される」（百貨店）

「コスト増加分の価格転嫁
が道半ばであるなど、様々な経
営課題が山積する厳しい状況
が続いている。一方、今月の明
るいニュースとして、随意契約
のコメを入荷・販売することが
できた」（総合スーパー）

【サービス業】

「観光需要に加え、株主総会
や祭事後の懇親会で宴会場の
利用も増え、好調である」（宿
泊業）

「6月は大きなイベントも
ないことから、閑散期である。
それに加えて、食料品価格の高
止まりが、自社の採算悪化と消

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

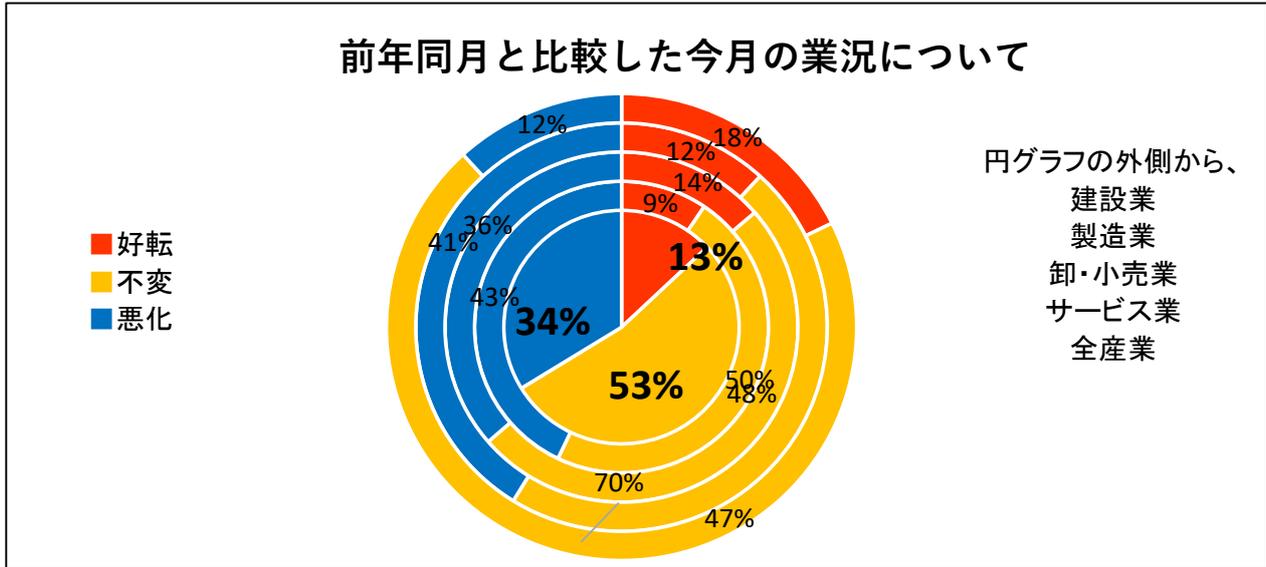
	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲15.4	▲10.6	▲20.7	▲17.2	▲19.7	▲9.4
2月	▲20.5	▲16.7	▲25.0	▲19.5	▲28.5	▲130
3月	▲19.2	▲15.6	▲24.7	▲17.6	▲23.1	▲13.9
4月	▲18.5	▲17.7	▲23.0	▲23.1	▲23.5	▲23.5
5月	▲18.0	▲13.8	▲22.3	▲23.7	▲25.2	▲8.5
6月	▲16.8	▲15.2	▲18.6	▲23.5	▲22.4	▲8.5
見通し	▲15.7	▲10.8	▲17.2	▲22.3	▲23.4	▲8.1

費低迷をもたらしており、業績
は例年の6月と比較しても悪
い」（飲食店）

令和7年（2025年）6月の動向

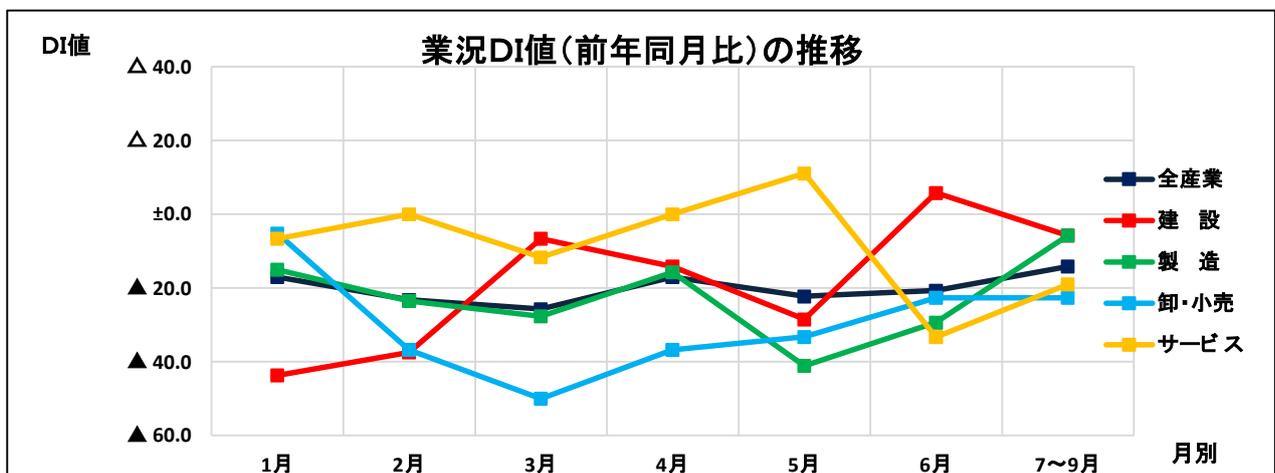
【業況について】

- 6月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲20.7（前月水準▲22.3）となり、マイナス幅が1.6ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（7月から9月）の先行き見通しについては、全産業では、▲14.2（前月水準▲19.4）となり、マイナス幅が5.2ポイント縮小した。



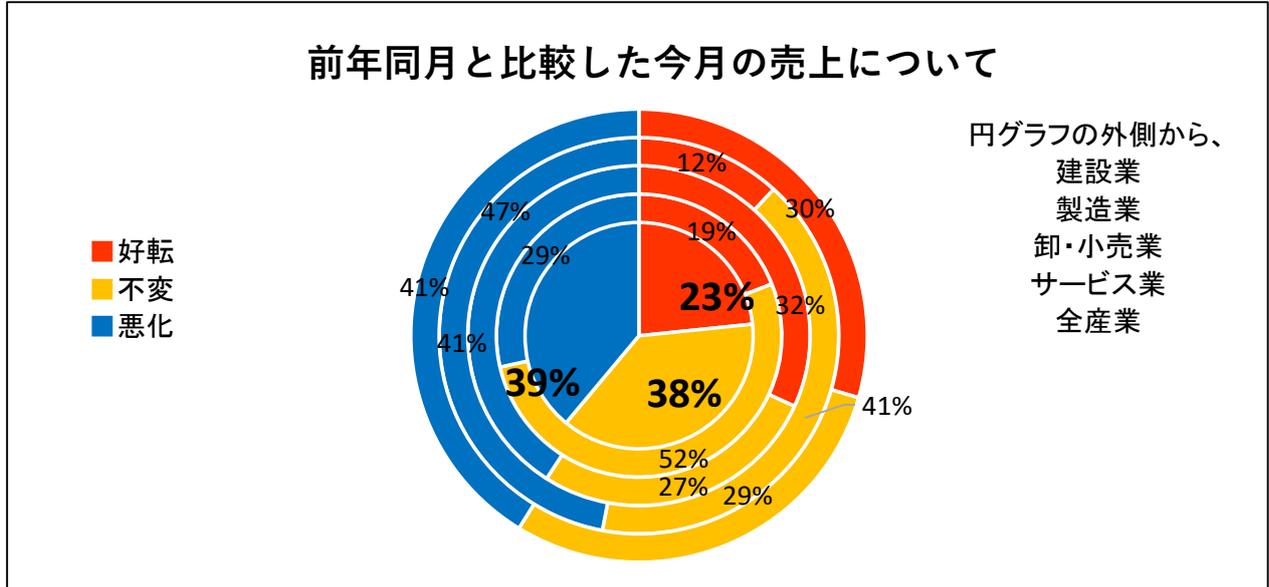
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年						先行き見通し	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~9月 (6~8月)	
全産業	▲17.1	▲23.2	▲25.7	▲17.1	▲22.3	▲20.7	▲14.2 (▲19.4)	
建設	▲43.7	▲37.5	▲6.6	▲14.2	▲28.5	△5.8	▲5.8 (▲21.4)	
製造	▲15.0	▲23.5	▲27.7	▲15.7	▲41.1	▲29.4	▲5.8 (▲29.4)	
卸・小売	▲5.2	▲36.8	▲50.0	▲36.8	▲33.3	▲22.7	▲22.7 (▲33.3)	
サービス	▲6.6	±0.0	▲11.7	±0.0	△11.1	▲33.3	▲19.0 (△5.5)	



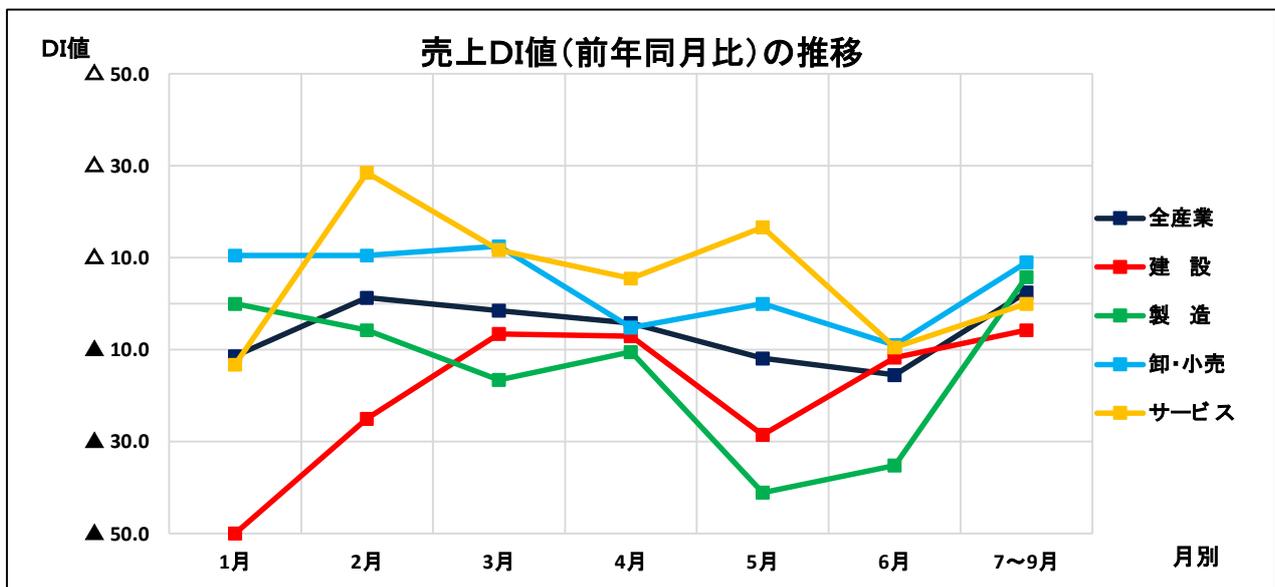
【売上について】

- 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.5(前月水準▲11.9)となり、マイナス幅3.6ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△2.5(前月水準▲1.4)となり、プラス幅が3.9拡大した。



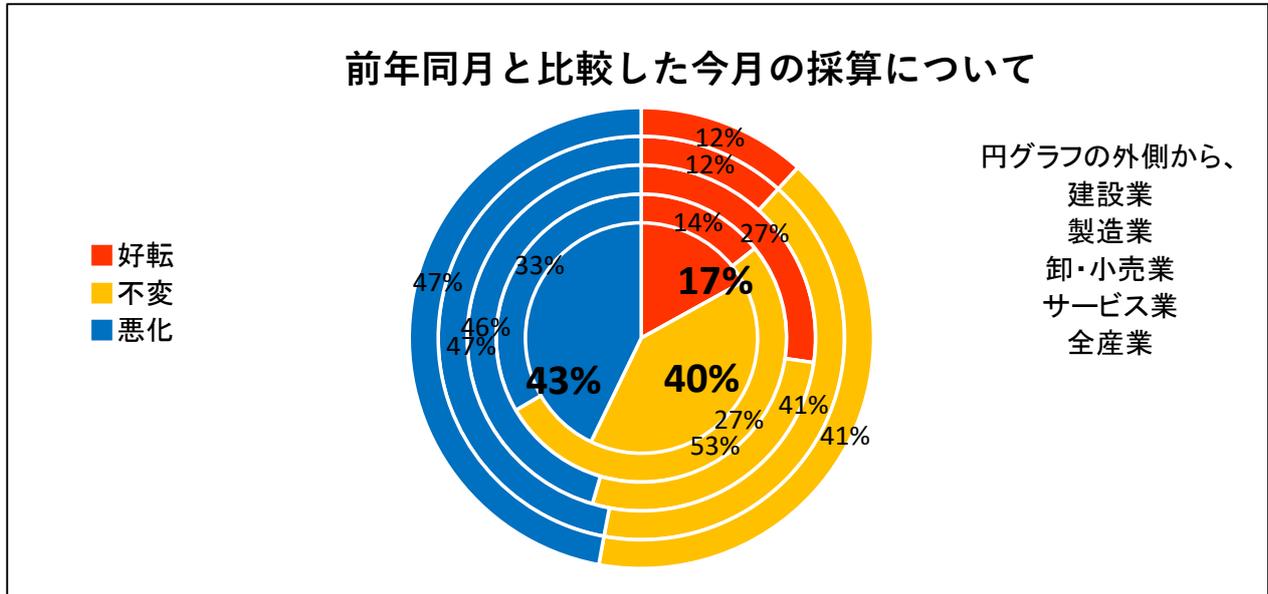
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和7年						先行き見通し	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~9月	(6~8月)
全産業	▲11.4	△1.3	▲1.5	▲4.2	▲11.9	▲15.5	△2.5	(▲1.4)
建設	▲50.0	▲25.0	▲6.6	▲7.1	▲28.5	▲11.7	▲5.8	(▲7.1)
製造	±0.0	▲5.8	▲16.6	▲10.5	▲41.1	▲35.2	△5.8	(▲11.7)
卸・小売	△10.5	△10.5	△12.5	▲5.2	±0.0	▲9.0	△9.0	(▲5.5)
サービス	▲13.3	△28.5	△11.7	△5.5	△16.6	▲9.5	±0.0	(△16.6)



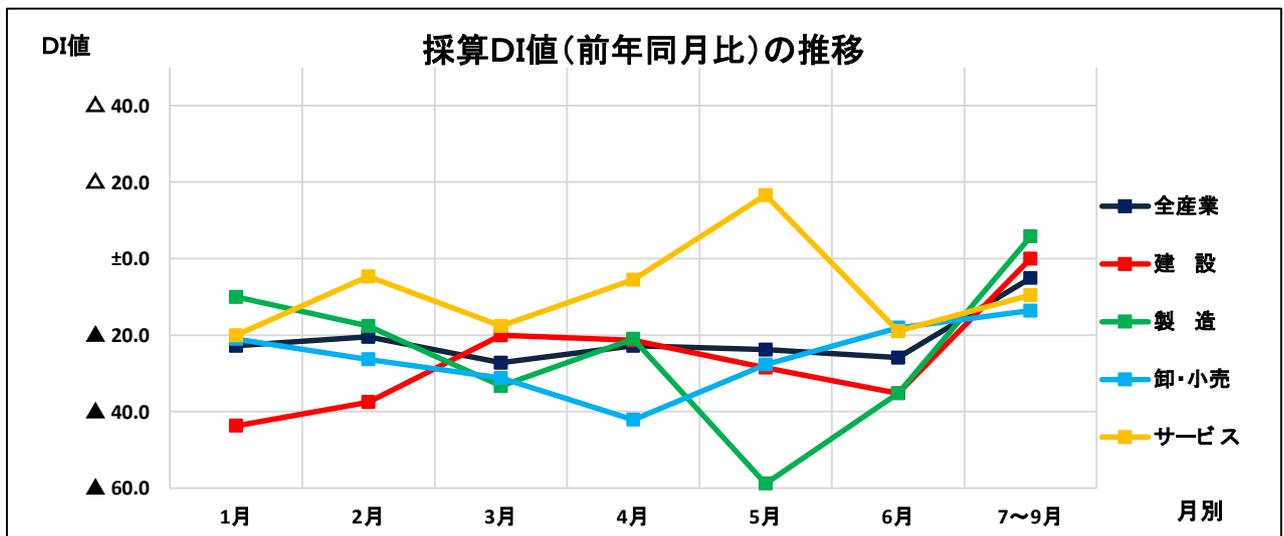
【採算について】

- 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.9(前月水準▲23.8)となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.1(前月水準▲11.9)であり、マイナス幅が6.8ポイント縮小する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

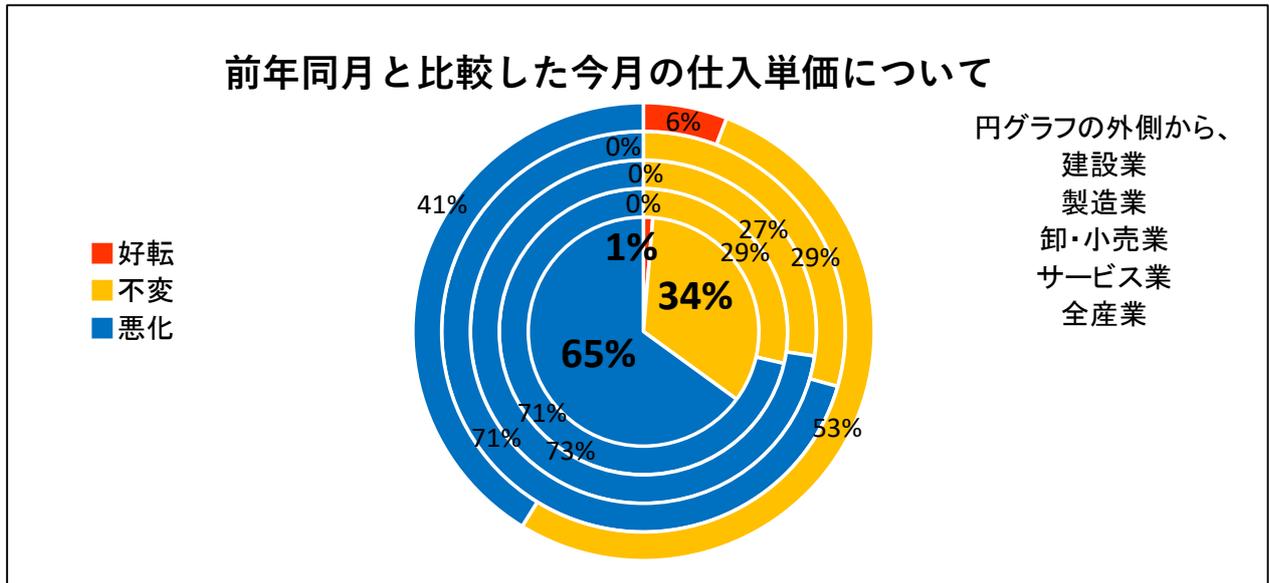
	令和7年						先行き見通し	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~9月 (6~8月)	
全産業	▲22.8	▲20.5	▲27.2	▲22.8	▲23.8	▲25.9	▲5.1 (▲11.9)	
建設	▲43.7	▲37.5	▲20.0	▲21.4	▲28.5	▲35.2	±0.0 (▲14.2)	
製造	▲10.0	▲17.6	▲33.3	▲21.0	▲58.8	▲35.2	△5.8 (▲23.5)	
卸・小売	▲21.0	▲26.3	▲31.2	▲42.1	▲27.7	▲18.1	▲13.6 (▲27.7)	
サービス	▲20.0	▲4.7	▲17.6	▲5.5	△16.6	▲19.0	▲9.5 (△16.6)	



【仕入単価について】

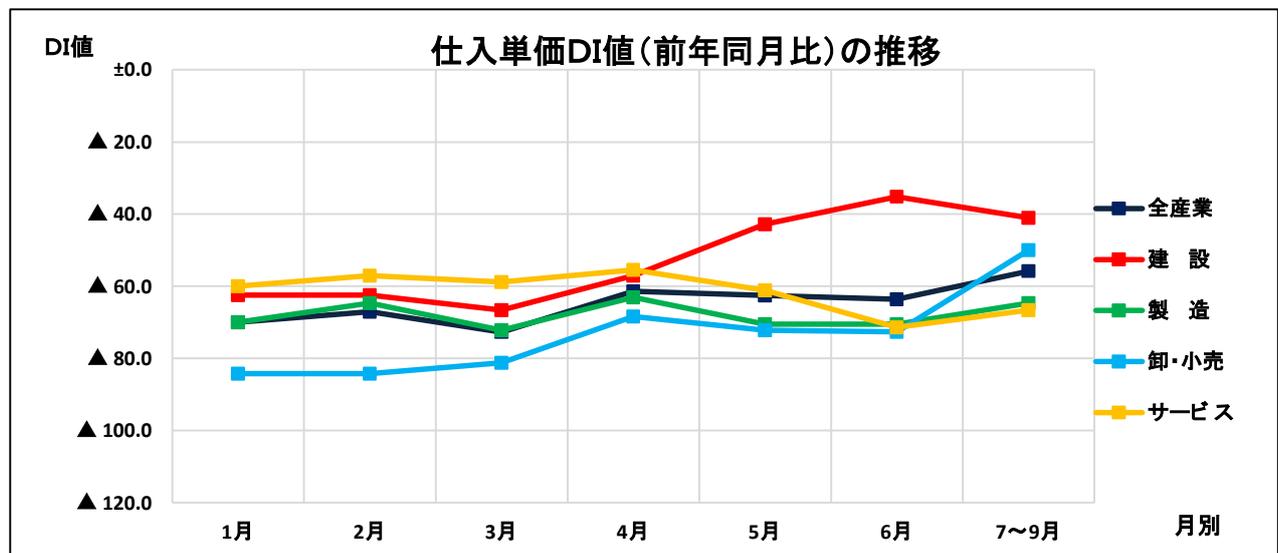
○ 6月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲63.6(前月水準▲62.6)となり、マイナス幅が1.0ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲55.8(前月水準▲56.7)となり、マイナス幅が0.9ポイント縮小する見通しである。



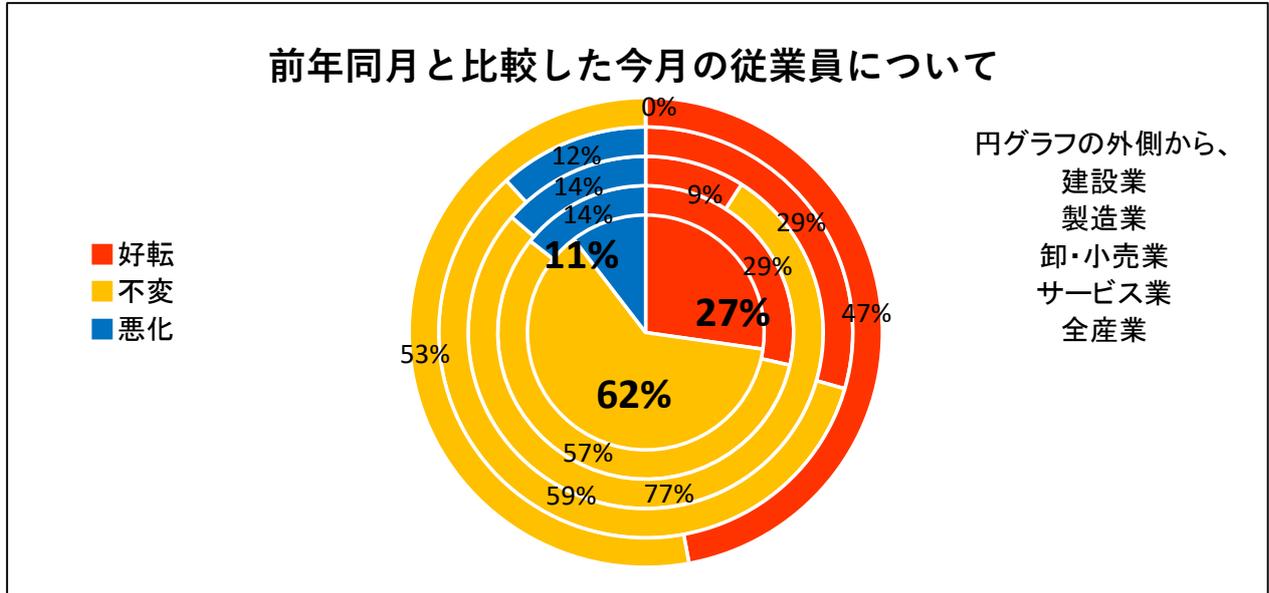
仕入単価D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和7年						先行き見通し	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~9月 (6~8月)	
全産業	▲70.0	▲67.1	▲72.7	▲61.4	▲62.6	▲63.6	▲55.8 (▲56.7)	
建設	▲62.5	▲62.5	▲66.6	▲57.1	▲42.8	▲35.2	▲41.1 (▲64.2)	
製造	▲70.0	▲64.7	▲72.2	▲63.1	▲70.5	▲70.5	▲64.7 (▲52.9)	
卸・小売	▲84.2	▲84.2	▲81.2	▲68.4	▲72.2	▲72.7	▲50.0 (▲66.6)	
サービス	▲60.0	▲57.1	▲58.8	▲55.5	▲61.1	▲71.4	▲66.6 (▲44.4)	



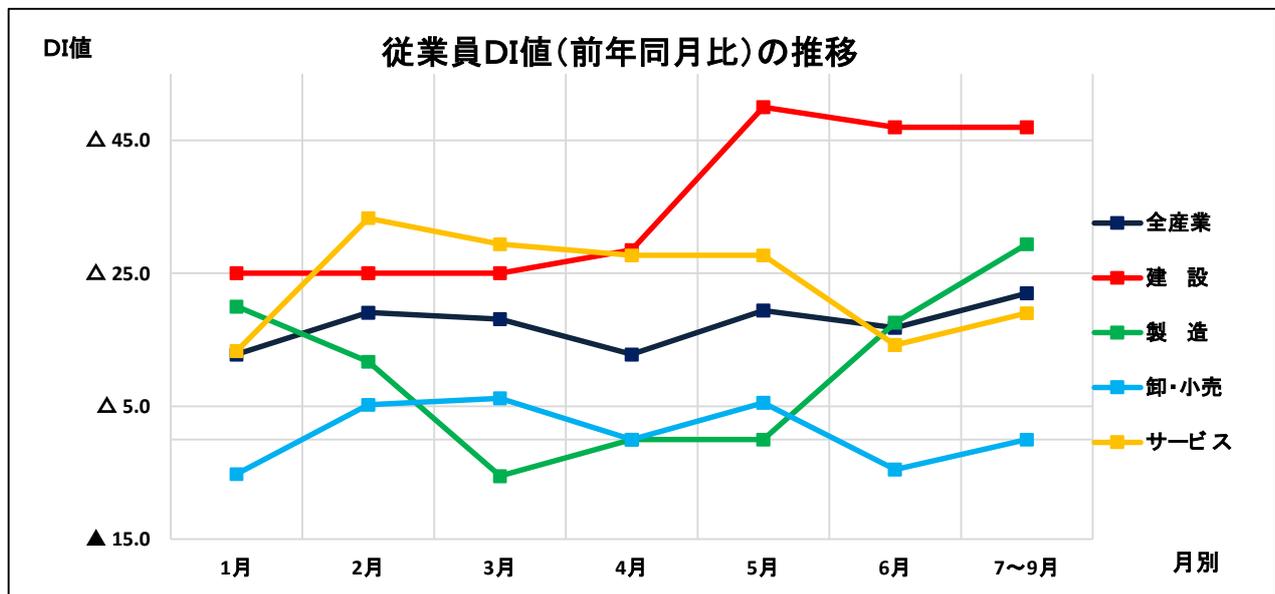
【従業員について】

- 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△16.8(前月水準△19.4)となり、プラス幅が2.6ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△22.0(前月水準△22.3)となり、プラス幅が0.3ポイント縮小する見通しである。



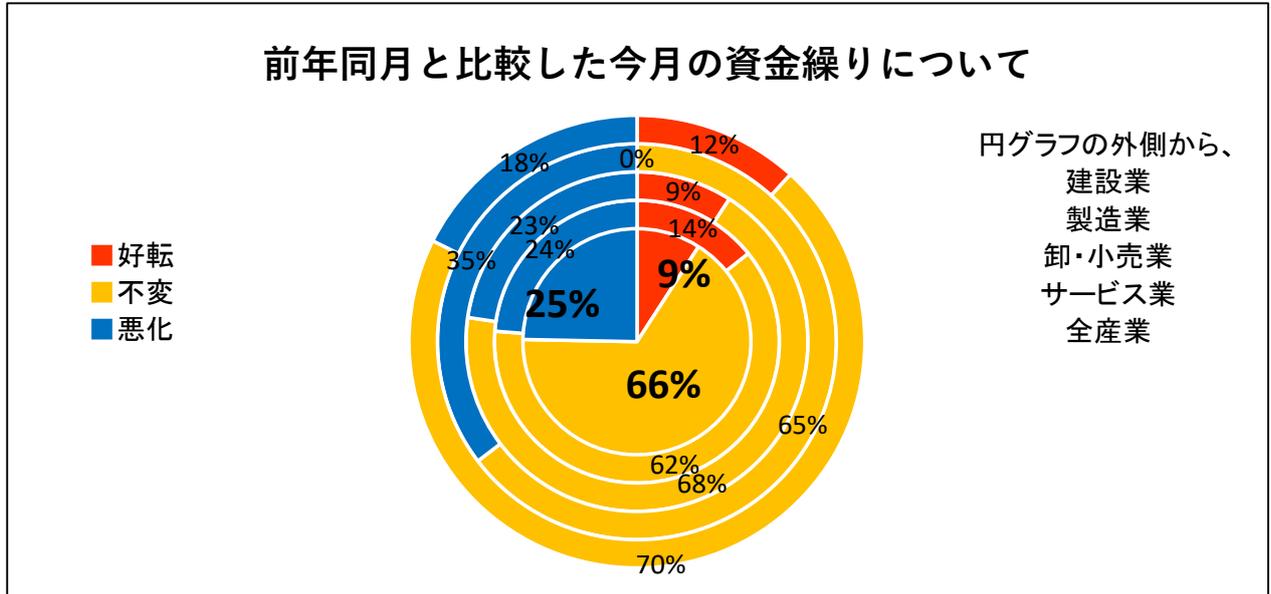
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和7年						先行き見通し	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~9月	(6~8月)
全産業	△12.8	△19.1	△18.1	△12.8	△19.4	△16.8	△22.0	(△22.3)
建設	△25.0	△25.0	△25.0	△28.5	△50.0	△47.0	△47.0	(△50.0)
製造	△20.0	△11.7	▲5.5	±0.0	±0.0	△17.6	△29.4	(△5.8)
卸・小売	▲5.2	△5.2	△6.2	±0.0	△5.5	▲4.5	±0.0	(±0.0)
サービス	△13.3	△33.3	△29.4	△27.7	△27.7	△14.2	△19.0	(△38.8)



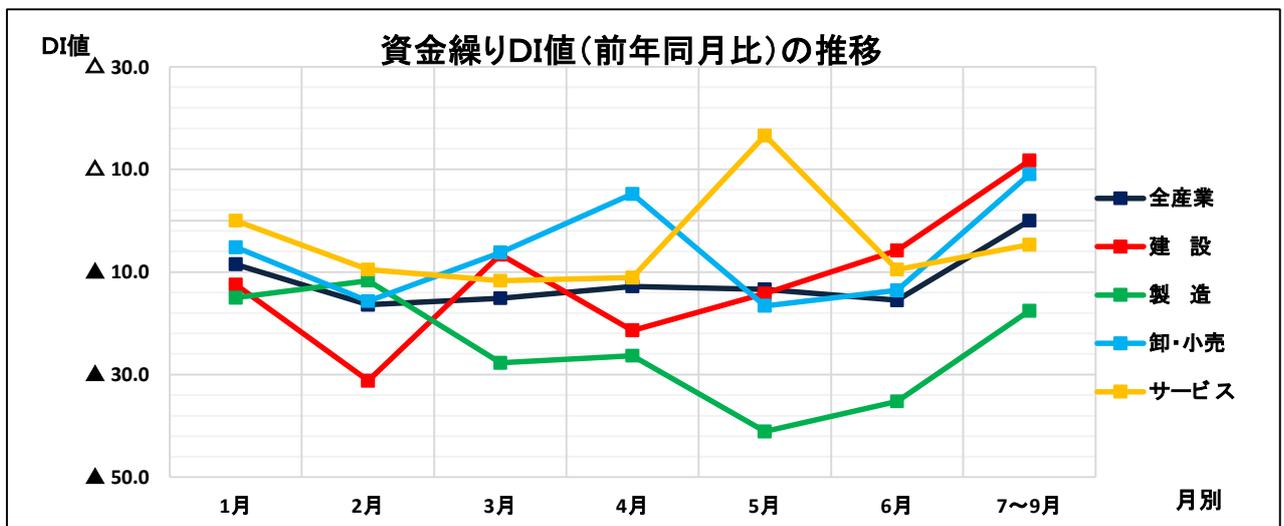
【資金繰りについて】

- 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.5(前月水準▲13.4)となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△0.0(前月水準▲10.4)となり、マイナス幅が10.4ポイント縮小する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年						先行き見通し	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~9月	(6~8月)
全産業	▲8.5	▲16.4	▲15.1	▲12.8	▲13.4	▲15.5	±0.0	(▲10.4)
建設	▲12.5	▲31.2	▲6.6	▲21.4	▲14.2	▲5.8	△11.7	(△7.1)
製造	▲15.0	▲11.7	▲27.7	▲26.3	▲41.1	▲35.2	▲17.6	(▲29.4)
卸・小売	▲5.2	▲15.7	▲6.2	△5.2	▲16.6	▲13.6	△9.0	(▲11.1)
サービス	±0.0	▲9.5	▲11.7	▲11.1	△16.6	▲9.5	▲4.7	(±0.0)

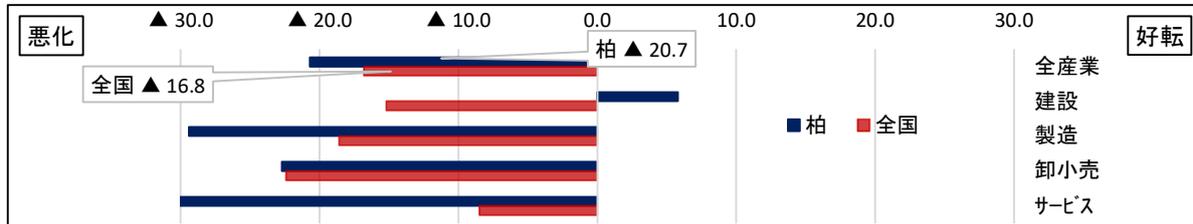


全国（CCI-LOBO）との比較

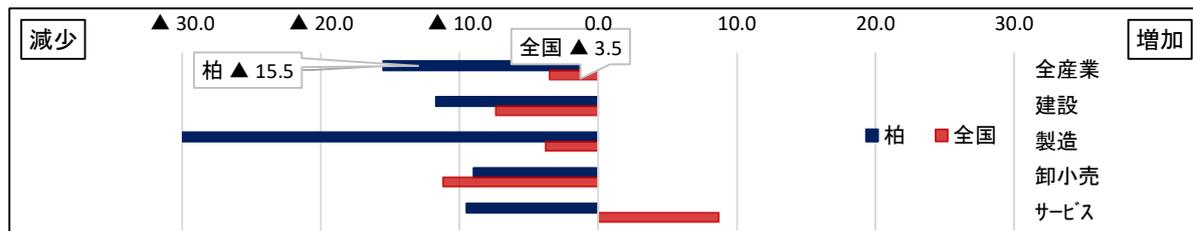
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

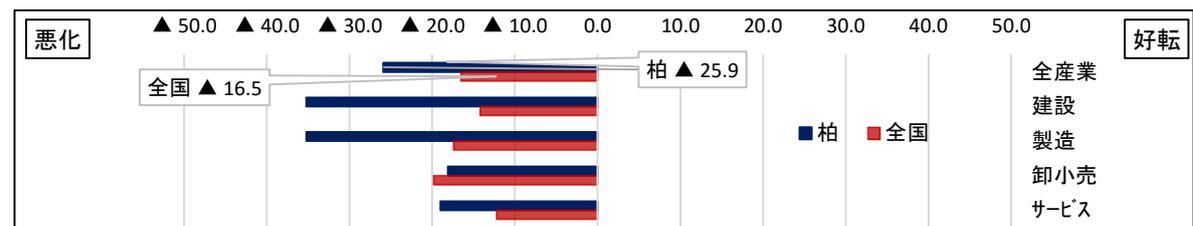
【業況D I】



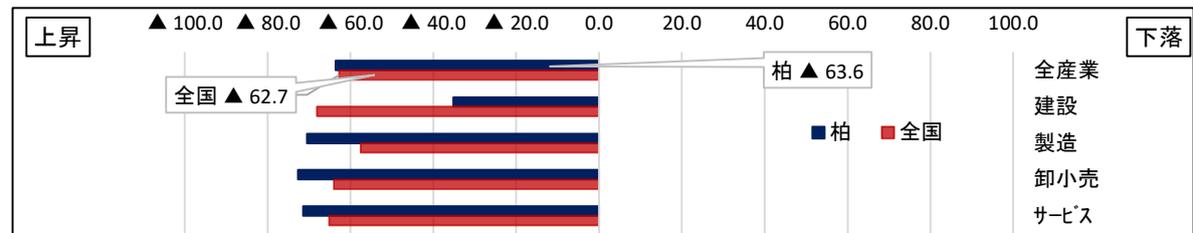
【売上D I】



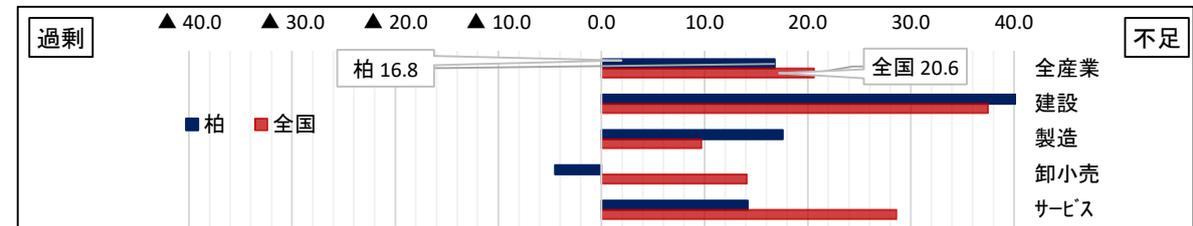
【採算D I】



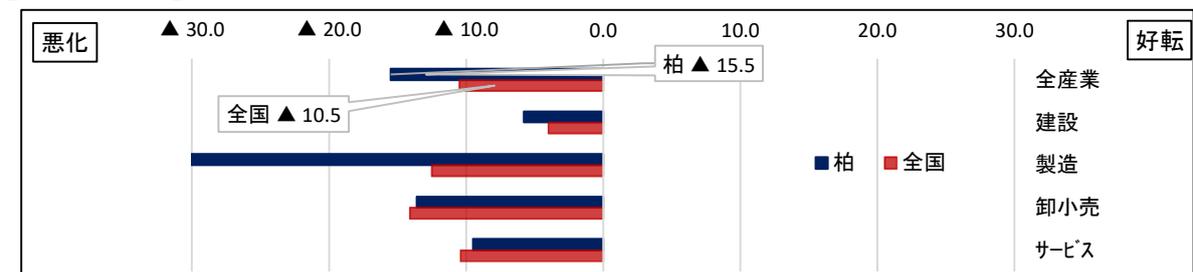
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	税金を払うために仕事をしているような気がする。お金が動けばすべて税金が絡んでいる日本の悪徳商法まがいの税金搾取構造を何とかしなければ日本企業は崩壊する。 外国資本(特に中国)の会社が日本に進出しているのであればドバイのように日本企業より割高の税金をかければいいだけだと思う。 石破総理、岩屋外務大臣では絶対に反対するだろうから、早く総理大臣、閣僚を変えないと日本が終わる。	塗装工事業
	国の財政政策	測量調査
	職人さんの高齢化に伴い若手を育ててきましたが、暑い夏の畳工場内労働環境整備が急務。	畳工事請負・畳製造販売業
	3ヶ月の見通しは国土強靱化政策に伴うインフラ整備関係業務の売上増加が見込まれるが、エネルギー関係、材料などのコスト上昇も見込まれるため、価格転嫁を含めた採算確保が課題である。	地質調査
製造業	各クライアント全て受注が一進一退を繰り返し決め手に欠けたまま推移してる。新企画案件が立ち上がればよい方向に進むのだが、時期はまだはっきりしない	プラスチック加工
	年度前半戦は人工が余っていたが、中盤から持ち直し傾向がみられる。原材料含む調達品の値上がり傾向は根強い。	その他の機械・同部品製造業
	業界全体として人手不足の為に、配送回数の減少が起こっている。特にカーメーカーサイドの部品卸が、ドライバー不足と輸送コストの削減、効率化を図って、配達回数を減らしたり、納品時間の延長を今後進めていくとの通達があった。	自動車・同附属品製造業
	売上高は若干ではあるが右肩上がりだが、それ以上のコスト増で利益は減少傾向が続いており、厳しい状況は当面続くと思ってる。 既存設備は各所築数十年経っており、新設備投資が数年間必須となっている。	その他の鉄鋼業
卸・小売業	5月は週末土日のどちらかに雨が降り、五月晴れと言われる日も少なかった。よって、集客に苦労し客数が思う以上に伸び悩み苦戦した。 6月に入り空梅雨で雨が少なく気温も上昇し、夏物の動きが出てきて一安心である。 しかし、急な気温上昇の為、野菜の高温障害やブラジル産鶏肉出荷停止(鶏インフルエンザ)による品薄のための相場高など、仕入れは安定しない 米は6月に入り、徐々に仕入れ量が増えつつあるが安定はしていない。 自店もスポット的に小泉大臣の古古米は入荷したが1時間も持たず好評であった。 また、カリフォルニア産の輸入米も試食販売したが好評である。 今後、新米の入荷までは二極化が進んでいくと思われる。	大型小売店
	お客さまの状況で言えば、天候不順により高齢者の動きは活発であるが、子育てファミリーについては逆風で客数が減少している。 子育てファミリーに向けた集客を増やしていきたい。	
	猛暑で客足にぶる、売り上げは維持しているが客数は減少。	洋菓子店

【業種別】業界内トピックス

	全体的に前年よりは悪化。但し高いところではあるが、ここ数ヶ月は落ち着いている。	その他の各種商品小売業
	燃料費等、光熱費の補助金は長期間やってほしい。	食料卸売業
サービス業	人手不足、即戦力と若手、大型案件受諾にも対応困難。	ソフトウェア業
	学習塾は人件費が経費の大半を占めるため、毎年賃金を上げてしていくことは非常に厳しい。助成金などもあるようだが、何か設備投資をしないと助成されないものがほとんどで、設備投資をする余裕もない企業を支援する気がないことが非常に腹立たしい。真面目に税金を納めている企業に対する政府や行政の対応の冷たさに失望している。	学習塾
	相変わらず不動産の価格、材料費、人件費は全て値上がりしている。また、売買市場は弱い。今後も、一般のお客様の動きは鈍い。	不動産管理業
	物価は下がらないと思うので必要な投資は早めに行っていくことを心掛けている。	不動産賃貸・管理業
	万博のお客様が目立って来ている、イメージが良いようだが今後の暑さが懸念される。沖縄ジャングリアの申込が徐々にではあるが夏休みに向けて出てきている、期待したい。	旅行
	例年よりも暑さが早く来たため昨対より来場者が8%減少。ただし客単価は変わらず漸増している。今年度は修繕などでキャッシュアウトが多いが、コロナ前に比べ見積もりが30~50%高くなっている。	ゴルフ練習場

調査要領

回答期間

令和7年6月20日 ~ 令和7年7月4日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	77	44.5%
建設	38	17	44.7%
製造	44	17	38.6%
卸・小売	46	22	47.8%
サービス	45	21	46.7%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				